

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 6 日現在

機関番号：24402

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2015

課題番号：25671021

研究課題名(和文) 住民による地域高齢者見守り支援評価指標の国際的標準化に関する研究

研究課題名(英文) International Standalization of the Index of Mimamori Support of Older Adults Living in Communities among residents

研究代表者

河野 あゆみ (Kono, Ayumo)

大阪市立大学・大学院看護学研究科・教授

研究者番号：00313255

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、日本で開発した住民による地域高齢者見守り支援の評価指標について、国外での適用可能性を明らかにすることである。具体的には、評価指標の韓国語版を作成し、韓国において高齢者見守り支援を行っている住民ボランティア326名に調査を行い、評価指標の適用可能性について、検証した。その結果、内的整合性および基準関連妥当性についてはほぼ確保されたと考えられた。また、住民ボランティアの地域へのコミットメントが高いことが地域高齢者の見守りを行うことに対する自己効力感に良い影響をもたらす可能性が示された。以上より、地域高齢者の見守り支援の評価指標については韓国においても適用可能であると考えられた。

研究成果の概要(英文)：Neighborhood watch (“Mimamori”) program in which volunteers provide support for their elderly neighbors could be encouraged to prevent social isolation among older adults. The present study evaluates a newly adapted Korean version of the Japanese Index of Mimamori Support, a tool used for measuring programs designed to prevent social isolation of older adults through the use of community-based volunteers. After translating and adapting the index for Korean use, we surveyed 326 volunteers living the Seoul, Korea metro area who were involved in neighborhood watch programs. The results demonstrated that the Korean version of the measure had both internal consistency and construct validity. This suggests that the Korean adaptation of the index can be used to measure the impact of highly committed community volunteers on the social isolation of older adults living in their communities. We conclude that the Index of Mimamori Support is applicable to Korean community settings.

研究分野：地域看護学

キーワード：地域高齢者 見守り 住民ボランティア 孤立予防 韓国 地域看護

1. 研究開始当初の背景

地域高齢者の孤独死や虐待などの問題の背景には、地域の人々同士の信頼関係が希薄になり、高齢者が孤立していることがある。地域高齢者の孤立を防ぐ1つの手段として、住民による高齢者見守り活動が国外の研究において報告されている。わが国でも、地域包括支援センターや社会福祉協議会等において、民生委員や福祉関連の住民ボランティアと連携しながら、地域高齢者への見守り活動が全国各地で提供されているが、評価や手法の根拠については、学術的に明確にはされていない。

見守り活動の効果を測る指標として、孤独死や虐待の発生率の減少、高齢者の安心感の上昇など高齢者への直接的な効果に関する評価と、高齢者への見守り活動を行っている住民自身が見守りに対してどの程度意義を見いだしているのか、達成感をもっているのか、その支援のプロセスに関する評価が挙げられる。中でも、特に後者のプロセスに関する評価は、重要と考える。なぜならば、見守り活動は、住民が主体的に意義を認識しない限り、継続しないボランティアな活動であるからである。しかし、住民による高齢者への見守り活動のプロセスを評価する指標については、国内でも国外でも定型化されたものはみとめられていなかった。

そこで、日本で住民による地域高齢者見守り支援の効果を評価する指標として地域コミットメント尺度と地域高齢者見守り自己効力感尺度を開発してきたが、前述のとおり、国外においても同様の見守り活動が行われていることから、開発した指標を国外でも適用可能であることを示す必要がある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、わが国で開発してきた住民による地域高齢者見守り支援の評価指標について、国外での適用可能性を明らかにすることである。

具体的には、評価指標について、韓国語版を作成し、韓国において高齢者見守り支援を行っている住民ボランティアに対して調査を行い、評価指標の適用可能性について、検証を行った。

3. 研究の方法

(1) 質問紙調査

対象と方法

平成 25 年度には、韓国ソウル市内 3 地区ならびにソウル市郊外 3 市において、高齢者見守り支援を行っている住民ボランティア登録者 335 名(100.0%)を調査対象とした。調査方法は、質問紙による自記式調査であり、ボランティア活動拠点に研究協力者が出向き、質問紙を配布し、回収した。回収することができた対象数は 335 名(95.4%)であり、欠損値の多いものを除いた。その結果、分析することができた対象数は 326 名(92.9%)

である。

調査内容

調査内容は、対象の基本属性として、性別、年齢、教育年数、世帯状況、調査地域での居住年数、出生地、持ち家(一戸建て、共同住宅を含む)の有無、収入を伴う職の有無について把握した。

地域高齢者の見守り支援に関する評価指標については、これまで研究者らが開発してきた地域コミットメント尺度(Kono, et al. 2012, BMC public health;12)と地域高齢者見守り自己効力感尺度(Tadaka, et al. 2013, Gerontologist;53)である。

地域コミットメント尺度は、「つきあい」に関する4項目と「帰属感」に関する4項目の計8項目(得点範囲 0-24 点)から構成されているリッカート尺度である。評価段階は「全く思わない(0点)」「あまり思わない(1点)」「ややそう思う(2点)」「とてもそう思う(3点)」までの4段階であり、得点が高いほど地域コミットメントが高いことを意味する。

地域高齢者見守り自己効力感尺度は、「コミュニティネットワーク」に関する4項目と「近隣見守り」に関する4項目の計8項目(得点範囲 0-24 点)から構成されているリッカート尺度である。評価段階は「全く自信がない(0点)」「あまり自信がない(1点)」「やや自信がある(2点)」「大変自信がある(3点)」までの4段階であり、得点が高いほど地域高齢者見守りに対する自己効力感が高いことを意味する。

いずれの尺度についても、英語版については、英語と日本語の流ちょうな質的研究を専門とする研究者に逆翻訳をしてもらい、議論した上で、第一案を作成した。その後、英語を第一言語とする研究者からコンサルテーションを受け、表面的妥当性を確認し、英語版を作成した。

韓国語版については、いずれの尺度についても韓国語と日本語を熟知する文学研究者1名と看護学研究者1名にそれぞれ逆翻訳をもらい、議論した上で第一案を作成した。なお、研究代表者は韓国語を使用することができないため、英語版を使用しながら、議論を行った。その後、韓国語を第一言語とする研究者からコンサルテーションを受け、表面的妥当性を確認し、韓国語版を確定した。

これらの地域高齢者の見守り支援に関する評価指標の基準関連妥当性を検証するために、地域コミットメント尺度については、Brief Sense of Community Scale(BSCS)(Townley, et al. 2009, J Community Psychol;37(3))、地域高齢者見守り自己効力感尺度については、改訂版 Loyola Generativity Scale(GCS-R)(丸島ら. 2007, 心理学研究)について、調査項目として含めた。

(2) 視察

韓国ソウルでの住民ボランティアの地域高齢者見守りの状況や高齢者ケアの実際を知るために、平成26年2月にDobong Silver Center（入居と通所機能をもつ高齢者介護施設）ならびにYangcheon Elderly Welfare Center（地域内での高齢者サロンや虚弱高齢者のための通所ケアを提供するセンター）に訪問した。Yangcheon Elderly Welfare Centerでは、住民ボランティア2名と高齢者福祉センター長に見守りに関するインタビューを行った。

（3）倫理的配慮

研究目的ならびに方法とプライバシーの保護について、対象者には文書と口頭で説明した。質問紙調査については、質問紙の記載をもって、同意を得たこととした。また、研究協力は自由意志に基づくものであり、いつでも中止可能であること、研究に参加しなくても不利益は被らないこと、目的以外では得られたデータを使用しないことを説明した。

分析担当の研究者は、データを匿名化した形でとり扱った。研究概要については、研究代表者の所属機関ならびに韓国側の連携研究者の所属機関の倫理委員会にて承認を得て、実施した。

（4）分析

質問紙調査の分析には、統計ソフトSAS9.4を用い、危険率5%未満を有意とした。韓国における汎用性については、前述したとおり、韓国における調査対象326名のデータのみ用いて分析したが、日本との比較を行うために研究代表者らが有している既存の日本の住民ボランティアのデータを活用した。

4. 研究成果

（1）韓国における質問紙調査の結果

対象の基本的属性の特徴

分析対象326名（100.0%）のうち、女性が270名（82.8%）を占めており、平均年齢は66.1歳（標準偏差19.3）であった。対象者の教育年数については7年未満の者が57名（17.5%）、7年以上10年未満の者が43名（13.2%）、10年以上13年未満の者が123名（37.7%）、13年以上の者が103名（31.6%）であった。世帯状況については、一人暮らしの者が59名（18.4%）、夫婦世帯の者が98名（30.5%）、夫婦と子どもとの二世帯同居をしている者が127名（39.6%）であった。対象の調査地域での平均居住年数は18.3年（標準偏差12）であり、調査地域で出生した者は32名（10.6%）、持ち家を有していた者は261名（80.1%）、収入を伴う職を有していた者は80名（25.1%）であった。

評価指標の記述統計、内的整合性ならびに基準関連妥当性

地域コミットメント尺度についての対象の合計平均得点は17.4点（標準偏差3.9）で

あり、尖度は-0.83、歪度は-0.10であった。内的整合性を示すクロンバッチ係数は0.68であった。また、地域コミットメント尺度平均得点とBSCS平均得点との関連を検討した結果、ピアソンの相関係数は0.40（ $p < .0001$ ）であった。

地域高齢者見守り自己効力感尺度についての対象の合計平均得点は15.4点（標準偏差4.7）であり、尖度は0.17、歪度は-0.44であった。内的整合性を示すクロンバッチ係数は0.74であった。また、地域高齢者見守り自己効力感尺度平均得点とGCS-R平均得点との関連を検討した結果、ピアソンの相関係数は0.72（ $p < .0001$ ）であった。

評価指標の因子分析の結果

地域コミットメント尺度について、プロマックス法による因子分析を行った結果、第1因子「つきあい」の寄与率は0.33、第2因子「帰属感」の寄与率は0.24であり、累積寄与率は0.57であった。各因子を構成する質問項目については原本どおりであった。

同様に、地域高齢者見守り自己効力感尺度について因子分析を行った結果、第1因子「近隣見守り」の寄与率は0.48、第2因子「コミュニティネットワーク」の寄与率は0.12であり、累積寄与率は0.60であった。各因子構成する質問項目については、原本とは一部異なっていた。すなわち、項目「町内会の活動、奉仕活動などに参加することができる」については、原本では「コミュニティネットワーク」に属していたが、本因子分析では「近隣見守り」に属していた。また、「項目「隣近所で見知らぬ人を見かけたら一声かけることができる」については、原本では「近隣見守り」に属していたが、本因子分析では「コミュニティネットワーク」に属していた。

（2）韓国ソウルでの視察

視察した時点で、ソウルの高齢化率は9.9%であり、高齢化は著しく進んでいなかった。しかし、住民ボランティアや高齢者福祉センター長へのインタビュー内容から、わが国と同様、近隣住民同士がお互い関心をもって気遣う見守る自発的な行動やボランティア活動が行われていることが示された。また、その行動の背景には、「奉仕をすることは幸せなことである」という価値観が明確に示された。

（3）日本の住民ボランティアに対する調査結果との比較

韓国の住民ボランティア326名とマッチングさせるために、既存の日本の住民ボランティアのデータセット859名から326名分のデータを無作為に抽出し、統計解析を行った。その結果、韓国の住民ボランティアは日本の住民ボランティアに比べ、女性であること、一人暮らしであること、在住期間が短いこと、

教育背景が多様であることなどの傾向がみられた。

また、日本の住民ボランティアに比べ、韓国の住民ボランティアの方が地域高齢者見守り自己効力感が有意に高かった一方、地域コミットメントに有意な差はみられなかった。地域高齢者見守り自己効力感を従属変数とした重回帰分析を行なった結果、最も説明力が高かったのは地域コミットメント($r = 0.35$)であった。なお、年齢($r = 0.24$)や国の違い($r = 0.17$)についても有意に従属変数を説明していた。

(4) 成果の国内外の位置づけと今後の展望

本研究では、わが国で開発してきた住民による地域高齢者見守り支援の評価指標について、韓国の住民ボランティア 326 名に質問紙調査を行い、その適用可能性を検証した。

その結果、地域高齢者見守り支援の評価指標とした地域コミットメント尺度と地域高齢者見守り自己効力感尺度については、一定の内的整合性と基準関連妥当性については、確保されたと考える。また、韓国での視察におけるインタビューにおいてもわが国と同様に、近隣住民同士が見守る関係性がみられた。日本の住民ボランティアのデータセットとの比較分析からは、年齢や国の違いを超えて、住民ボランティアの地域へのコミットメントが高いことが地域高齢者の見守りを行うことに対する自己効力感に良い影響をもたらす可能性が明らかになった。以上より、地域高齢者見守り支援の評価指標については、韓国においても有用であり、適用可能性があると考えられた。なお、地域高齢者見守り自己効力感については、下位概念の構造に一部日本と韓国では異なっていたため、下位尺度として活用する際には注意深い取り扱いが必要かもしれない。

韓国は、儒教思想を持つ同じ東アジア圏であり、文化的特性や住民の高齢者に対する意識などが世界の他の国に比べて、比較的日本に近い。本研究では日本と同様の結果が得られたと考える。したがって、日本とは、異なる文化的特性を持っている英語圏等においても地域高齢者見守り支援の評価指標について検証することが今後の課題である。そのことにより、既に世界でも有数の超高齢社会であるわが国が地域高齢者の孤立を防ぐことを目的とした住民による見守り活動の評価指標や学術的意義について、追って高齢化が進む世界各国に発信することができると考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

金谷 志子, 河野 あゆみ, 地域住民を対象とした高齢者見守り活動促進プログラム

の開発とその評価, 日本地域看護学会誌, 査読有, 18(1), 2015, 12-19

〔学会発表〕(計6件)

Ayumi Kono, Jeung-Im Kim, Yukiko Kanaya, Scales for Measuring Community Commitment and Self-Efficacy for Watching Elderly Neighbors in Korea, 68th Annual Scientific Meeting GSA, 2015年11月20日, Orlando(USA)

Ayumi Kono, Jeung-Im Kim, Yukiko Kanaya, Is community commitment in local volunteers in Korea and Japan an indicator of self-efficacy for watching elderly neighbors? The 6th International Conference on Community Health Nursing Research, 2015年8月20日, Seoul(Korea)

Yukiko Kanaya, Ayumi Kono, Evaluation of the neighborhood watching program to prevent social isolation of elders, The 6th International Conference on Community Health Nursing Research, 2015年8月20日, Seoul(Korea)

Ayumi Kono, Etsuko Tadaka, Yukiko Kanaya, Yuka Dai, Waka Itoi, Yuki Imamatsu, Reliability and Validity of the Self-Efficacy Scale for Preventing Social Isolation of Elderly Residents, 67th Annual Scientific Meeting GSA, 2014年11月7日, Washington,DC(USA)

Ayumi Kono, Etsuko Tadaka, Yukiko Kanaya, Yuka Dai, Waka Itoi, Yuki Imamatsu, Criterion-Related Validity of a Community Commitment Scale among Older People, 67th Annual Scientific Meeting GSA, 2014年11月7日, Washington,DC(USA)

Etsuko Tadaka, Ayumi Kono, Yukiko Kanaya, Yuki Imamatsu, Yuka Dai, Waka Itoi, Scale development of Self-Efficacy Scale for Preventing and Alleviating Social Isolation among the community-dwelling elderly people (SES-PAS):community volunteers, 66th Annual Scientific Meeting GSA, 2013年11月20日, New Orleans(USA)

6. 研究組織

(1)研究代表者

河野 あゆみ (KONO, Ayumi)

大阪市立大学・大学院看護学研究科・教授
研究者番号: 00313255

(2)研究分担者

田高 悦子 (TADAKA, Etsuko)

横浜市立大学・医学部・教授

研究者番号: 30333727

金谷 志子 (KANAYA, Yukiko)

大阪市立大学・大学院看護学研究科・准教授
研究者番号：00336611

(3)研究協力者

Jeung-im Kim (KIM, Jeung-im)
Soonchunyang University・School of Nursing・
Professor